

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した介護サービスの運営方針や明るさ・やさしさ・おおらかさの理念の基、管理者、職員が行動指針を確認共有しながら実践に取り組んでいる	「明るさ・優しさ・おおらかさ」の事業所独自の理念により、地域密着型サービスの役割を明確にしている。又、理念を基にした「見る・聴く・待つ」の行動指針が職員全員に浸透しており、昨年は「イライラしない介護」を徹底して行っていた。今年は「決め付けない介護」を目標とし、日々の支援に取り組みたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催のふれあい喫茶やなごみ会、ボランティアや保育所園児との交流、中学校吹奏楽部の演奏会の実施等地域の一員として繋がりを深めている	月に1回開催されている自治会主催のふれあい喫茶やなごみの会への参加や弁天保育園との交流・地域婦人会の傾聴ボランティア等、地域の方との交流の機会を設けている。地域の催しには順番に利用者をお連れする等、地域住民の一員として参加し、今後は認知症カフェ等の実施により地域貢献に取り組んで生きたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア様を受け入れ利用者様との交流を図り認知症の方々への対応をご理解頂き、今後もご協力頂けるよう呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、入居者様、家族様、あんしんすこやかセンターの職員様、民生委員様、他施設管理者様、知見を有する方等の参加により多くの情報やご意見を頂いたり交換する機会としサービス向上に活かしている	あんしんすこやかセンターの職員、民生委員、地域のグループホームの管理者等の知見を有する方々に参加頂き2ヶ月に1回開催し、頂いた意見や情報を基にサービスや運営に活かしている。今後はご家族にも積極的に参加頂ける様、取り組んでいきたいと考えている。また、ご家族や民生委員、自治会長等をお誘いし、利用者と共にバーベキューや郷土料理等のおもてなしを、毎月第3金曜日に実施し、交流を深めている。	利用者やご家族の参加を促し、より多くの意見を得る機会を検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区域に於いては、グループホーム連絡会等の場においての連携や利用者様の諸手続き等を通じて行き来する機会を持っている	運営推進会議に出席された、あんしんすこやかセンターの職員を通し、事業所の取り組みを理解していただき、情報の共有を図っている。また、2ヶ月に1回開催される西区のグループホーム連絡会に職員と共に参加し、グループホーム間の情報や意見の交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に向けた研修、ケア会議」を行い、出来る限り廃止に向け努力している	利用者の安全な環境づくりに努め、見守りを徹底し身体拘束のないケアに取り組んでいる。又、日常的に表玄関の出入り口やエレベーターは自由に利用できるようになっているが、外出希望の状況を感じたときは、さりげなく付き添い安全に配慮している。	身体拘束に向けた指針を明確にし、事業所の年間計画に取り入れられることを期待したい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修、内部研修等を通じ意識は向上しています。今後も虐待が見過ごされる事がない様防止に努めている	虐待防止マニュアルにより、定期的に内部・外部の研修に参加することにより、職員の意識の周知徹底を図っている。また、日々のケアでの不適切な対応がないか、ミーティング等で振り返る機会を設け、管理者は職員のストレスや体調に留意し利用者のケアに影響しない様、コミュニケーションに努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	冊子、資料の回覧や成年後見制度の外部研修を受け理解を深めている	成年後見制度を利用している利用者もおられ、事業所として必要な支援を行なっている。現在、制度が必要な利用者が居られたら管理者が窓口となって支援する体制が整っている。今後は年間研修計画により、外部研修を充実させ、職員が制度の理解し、ご家族等の質問に答えられる様に努めたいと考えている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人やご家族の意見等を充分にお伺いし、また説明させて頂きご理解を頂く様にしている	契約は管理者がご家族のご都合を確認し、契約書・重要事項説明書・パンフレットを用いて質疑応答を交え、丁寧な説明に努めている。又、ご家族の質問には出来ること出来ないことについての説明や医療連携・重度化、終末期対応について理解頂ける様、工夫し同意をいただける様努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日常の声掛け等を通じて意思疎通を図り、ご家族様に関しては、苦情相談の受付窓口を重要事項説明書に明記しご案内しています。また、施設玄関にも相談受付窓口を掲示していつでも相談できるようにし、頂いたご意見は早急に検討対応しています。	ご家族の訪問時には職員が利用者の近況報告を行いながら、気軽に意見や要望を伝えやすい雰囲気作りに取り組んでいる。また、食事会・家族会の開催時に話しやすい機会をつくり、1階玄関と2階入り口に苦情箱を設置しているが、意見をいただけることは殆どない。	苦情箱の設置方法や記入様式の検討を行い、忌憚のない意見や要望をいただける様工夫されることを期待したい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の定期的な会議の場を設けるとともに、管理者と職員の面談を定期的に行い、職員の意見を充分に聞ける機会を設け職員の提案を職場に反映させている	昨年、管理者が交代し、これまでの施設運営に配慮しながら、新たな運営方法を模索している状況にある。それにより定期的な会議を開催し、職員の意見や提案の把握に努め、利用者の支援に反映させたいと考えている。また、管理者との個人面談を3ヶ月に1回実施し、職員からの忌憚のない意見を引き出し、より良い支援に繋げるよう検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間においても職員の要望を確認し、柔軟に対応しています。資格取得等については待遇面で反映し意欲の向上を図っている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、市民救命士講習等の積極的な受講、グループホーム連絡会や運営推進会議への参加、認知症サポーター研修受講等に取り組み職員スキルアップにつとめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設運営推進会議参加や法人グループ内のサークル活動を通じ、交流の場を作りサービスの質の向上につなげている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に得た情報を全職員で共有し、施設の生活に慣れられるよう、特に精神面のケアに充分配慮し、聴くこと待つ事を大切に不安が解消していくように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談からご入居に至るまでご家族様等の不安、ニーズをよく聞いて受け止め、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時のニーズを見極め当ホームへのご入居が本当にご本人にとって適切かどうかも含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員は日々の暮らしと喜怒哀楽を共にし、人生の先輩である利用者様から学び支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご理解ご協力なしにはグループホームでのケアは成り立たないといっても過言ではなく、ホームとご家族はご本人を共に支え合う関係であるよう努めている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族ご親族はもとよりご友人等との関係性が継続できるように努めています。また、なじみの店や喫茶店などにお出かけする行事もおこなっている	ホームには地元の利用者が殆どおられないため、馴染みの方の訪問は殆どないが、訪問しやすい環境づくりに努め、遠方からの知人やご家族との関係継続を支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の人間関係を十分に把握し、ご利用者様同士が良い関わりが持てる様、またトラブルが発生しない様により良い関係性の維持に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている方やご家族様に対してはいつでも相談頂けるよう対応し、他施設にご入所された方には相談員と連絡を取り経過をフォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様との会話などを通じ、思いや希望の把握に努めています。困難な場合でもできる限り希望に添えるように検討し近づけるように努力している	入居時に家族から聞き取った利用者の思いや意向は記録し、介護計画に反映させている。入居後は利用者寄り添った支援と日常会話から本意を伺い、支援に繋げている。また、意思の疎通の困難な利用者にはその表情や反応、言動から利用者の立場になり、思いを把握するよう努めている。	センター方式の活用で、よりきめ細かな利用者の思いや意向の把握に努められることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご本人やご家族様から生活歴や暮らし方について充分お聴きし把握してホームでの生活に活かせる様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力、ホームでの人間関係等の現状を総合的に把握するよう務め、ケアプランに反映し支援している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの定期的な見直しの際にはご本人やご家族様の要望を確認し、モニタリング会議等を通して、又、入退院等緊急案件が有る場合はその都度会議を行い作成している	施設介護サービス計画は、アセスメント時に頂いた意見や要望を基に6ヶ月毎に見直しを行っており、課題に対して、新たな施設サービス計画に反映させている。また、日々の申し送り把握した利用者の状況をスタッフ間で共有し、アセスメント時に意見や情報交換を行い、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきは、管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に情報を共有し実践や介護計画見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調の変化やご家族様の状態の変化があれば、随時ご利用者様ご家族様職員間で話し合い見直しを行うと共に、必要に応じて他サービスとの連携も含めて、多機能化に取り組んでいる		

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のふれあい喫茶・なごみ会の地域行事に参加させて頂く等、お一人おひとりが安全で豊かに暮らして頂けるよう支援している			
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、連携している病院も有り通常月2回の往診等を行っている。また入居前からのかかりつけ医等を主治医としたい旨のご要望等には必ず対応し、希望や必要があれば、家族様の協力を得ながら受診できるよう支援している	母体の医療機関との連携により、定期的な往診、緊急時や夜間の対応が行える体制が整っている。また、歯科・眼科・皮膚科の往診も行っているが、他科受診や指定外の通院にはご家族の協力をお願いしている。受診の結果は記録に残し、職員間で共有し、必要事項はご家族に報告を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、日々の様子、ケアの実践、結果、気づきはすべて管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に、かかりつけ医へ報告し、指示のもと適切な対応ができるよう努めている			
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは密に連絡を取り、状態の確認等の情報交換に努め退院時には早急に受入できるよう支援している	入院時は職員が付き添い、医療機関へ日常の情報を提供している。母体の医療機関とは常に連携を取り、早期退院に向け、情報交換を行っている。退院時は看護サマリーの提供を受け、退院後の支援に活かしている。また、入院期間は3ヶ月以内であることを契約時にご家族に伝え同意を頂いており、状況によってはご家族の判断を仰ぎながら系列の老人保健施設や医療機関への転院を検討いただく事も可能である。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、ご入居時に家族様の意向の確認をおこなっている。重度化した場合には面会時にご本人の状態やホームでできる対応の説明をおこない、家族様と話し合っている。遠方や忙しい家族様には電話等により密に連絡を取り対応している。また地域の施設や病院の相談員と連携を取り、早急に対応できるよう取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、ご家族の同意を頂いている。現在は終末期の対応は行っていないため、契約時の説明で系列の医療機関や老人保健施設へ転院希望することが可能であると伝えている。管理者と職員は看取りに関しての研修に積極的に参加し、将来的に対応することになった場合に支援できる体制を整えたいと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等にはすべての職員が初期対応を取りホーム長・かかりつけ医に連絡し、必要に応じ医療機関へ即座に連絡受診対応できる様にしている。			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に避難訓練等を実施するなどして避難する方法は周知できている。また大災害に備え食糧や飲料水等も3日分程度の備蓄を用意している	年に2回隣接するケアハウスと合同での消防訓練を消防署と共に実施している。緊急時の法人内での協力体制は連携が取れており、食料品・毛布の備蓄やAEDは隣接するケアハウス内に備わっている。また、地域との協力体制を得る件に関しては検討を重ねている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類等の個人情報は、職員室に保管しており職員以外には入ることが出来ず、利用者様に対する声かけは丁寧に行っており、プライバシーには十分配慮している	一人一人の個性に応じて声掛けを行い、日常的に誇りやプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。気になる言葉かけや対応があれば、職員会議で話し合い理解を深め、互いに注意をし合える環境にある。また、個人情報に関しては職員室に保管し適正な管理を行っている。	プライバシーを損ねない支援方法について、より一層の理解を深めるよう努め、利用者の日常生活に反映されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できる言葉掛けを行い、思いを聞き出せるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等は利用者様の意向を確認しながら体調に留意し見守りを大切に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人一人に担当職員がつき、ご希望に添えるよう室内の整理整頓等・衣類の用意など支援している。身だしなみについては1～2か月に一度の訪問理美容等に対応し、他の理美容院等のご利用も希望に応じている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事に興味のある方やそうでない方も楽しみを持って食事が出来る様に味付けや彩に配慮し、食べやすい大きにするなど工夫をしている。その日の気分や体調に合わせて食事準備から片付けまで負担のない範囲で職員と一緒にしている	食事は隣接するケアハウスの厨房で作られ、ホームで取り分けている。取り分けや配膳・下膳は利用者と共にし、お箸と湯のみは利用者の好みの物を使っている。食事形態も体調に応じて工夫し提供している。また、希望に応じて外食に出かけたり、お寿司やケーキを利用者と共に手作りする事もある。	利用者と同時に食事を始め、家族的な対応により食事の楽しみを共有する体制を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量・水分量等、1日を通して記録し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 出口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には自立支援の為、又入居者様の力を引き出せるよう自分で磨いて頂き、その後職員が磨き残しがないか口腔内チェックを行い日常的に清潔を保てるように支援している		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、おむつを出来る限り使用しないで済むように、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄等自立に向けた支援を行っている	個別の排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導を行い出来る限りのトイレでの排泄を支援している。また、布パンツを使用されている利用者も多数居られ、適切な声掛けにより行きたい時に行っていただけるよう工夫している。年に1回～2回オムツメーカーの協力で研修を行い、適切なオムツの利用方法やオムツ外しの目標に繋げている。トイレ誘導時の声掛けは利用者のプライバシーの確保や羞恥心の配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度の運動をする事で排便を促し正常排便できる様努めている。排泄チェック表に個々の排泄を記録し一定期間排泄がない場合は主治医から処方されている便秘薬を服用する		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合わせで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回程度の入浴を行っているが、体調に合わせてまた希望に合わせてその都度、日時の変更等も柔軟に行っている	週に2回以上の午前入浴を基本とし、利用者の生活習慣や体調に応じて臨機応変に対応している。また、ラベンダー・柚子・菖蒲・レモンの葉などの利用により、季節を感じながら入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。入浴に拒否があるときは声掛けや誘導方法を工夫し、プライバシーに配慮した支援を心掛けており、ヒートショック防止のための浴室の暖房等にも気を配っている。隣接するケアハウスの浴室を希望に応じて利用する機会も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のリズムを把握し気持ちよく休んで頂き、又年齢や体調に合わせて昼間の睡眠も支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が服用する薬の目的や副作用、用法、用量を周知しており、医師の指示通り服薬できる様支援し、また症状の変化を医師に伝達確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の持つ得意分野を発揮して頂けるよう努め活力を引き出すよう支援し、調理、家事、歌、傾聴ボランティア、踊り等ボランティアの協力で活気ある日常を過ごせている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などの外出は気分転換になると捉え、可能な限り出掛けられるようにしている。ホームの広い敷地内や隣接する公園等を散歩し地域の出会う方々と会話ができる関係が築けている	近隣のスーパーやドラッグストアへ食材や日用品の買い物に出かけたり、自治会主催のふれあい喫茶の参加や施設前の公園での散歩時の近隣住民とのふれあいなどにより、気分転換を図っている。一人一人の希望や利用者の身体状況に応じた移動方法で垂水健康公園や須磨寺ヘドライブに出かけることもある。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居様が金銭管理が出来ない場合は職員が記帳管理し、買い物可能な方はその都度ご自身でお支払いして頂く等の支援をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の要望があれば家族様の了解を得適切に支援できる様にしています		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は音楽が静かに流れ、季節の花や利用者様が作成された作品を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している。リビングはダンスや踊りを踊るスペースとしてりようできる	共有空間には明るい日差しが差し込み、清潔感があり、ゆったりと寛げる空間となっている。夫々の居室もフロアに面しており、季節感のある利用者の作品や季節の花で飾られ家庭的な雰囲気作りに努めている。各フロアは利用者の状況に応じて安全に楽しくゆったりと過ごせるよう、ソファやテーブルの配置を工夫し、過ごしやすい環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間は食堂部分と利用者様、来客者等がゆっくりとくつろげるリビングルームに分かれている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた家具、仏壇、生活用品を居室へ持ち込んで頂き利用者様のご自宅で過ごされていた時のように居心地良く過ごせる様に配慮している	利用者の居室の入り口には担当者が工夫した表札を掲げ、利用者が自分の居室とわかるよう配慮している。居室内は利用者が使い慣れた家具や馴染みの物を配置し、その人らしく居心地よく過ごせる空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を重視しつつも「できる事」「わかること」が活かされる様手伝いすぎない努力をしている。特に「安全の確保」と「自立支援」のバランスを欠くような支援が見受けられた様な場合には職員間で十分な会議を持つようにしている		